

松伏をもっと素敵な町に

あけましておめでとうございます。

いつもながら新しい年の始まりというのは、晴れやかさとともに緊張感が漂います。元日の朝、ポストをそっと開け、親しい人、懐かしい人から届く近況にホッとしたり、思い切ってあるいは控えめに掲げた新年の抱負を垣間見たりする穏やかなひと時を私は楽しみにしています。

町長に就任し3年目の元旦を迎え、私からも町民の皆さまへ役場の近況を交えて、今年の抱負などをお伝えさせていただきたいと思います。

町政を取り巻く社会情勢は、国の三位一体改革による地方交付税の大幅な減少等により、依然として厳しい状況にあります。皆さまからは、道路整備をはじめ教育、福祉施策など子どもたちや生活に密着した住民サービスを今以上に充実するよう、直接・間接的に求められています。実現するためには裏付けとなる財源が必要となりますが、今の町政には南洲翁（西郷隆盛）遺訓「入るを量りて出るを制する」ことが肝要であると考えています。

この3月には、勧奨により全職員の約1割を超える23人が退職しますが、新規採用は若干名の予定です。「職員が少なくなり住民サービス等がおろそかになる」と心配する声もありますが、固定的に支出する人件費総額を少なくする必要がある、収入と支出のバランスを適正にすることが町の健全運営に一番必要なことです。

このような時期を早く乗り越え「松伏をもっと素敵な町」にするために、私は、次の6項目を今年の重点施策として取り組んでいきます。

- 町の活性化の起爆剤となる東埼玉道路・浦和野田線などの整備促進
- 本格化する高齢社会に備えた福祉体制の確立
- 特産品づくりをとおした元気あふれる地域産業の育成
- 町の宝である子どもたちの安心・安全な学校教育施設の整備
- 健康づくり運動を広めることによる健康都市づくり
- 第4次松伏町行政改革大綱による財政健全化の推進

この6つの施策を進めるためには、役場自らが更なる「内部努力」を実行するとともに、事業の「選択と集中」を徹底していきます。そして、もう一つ施策を進める上で重要となるものは、町民の皆さまとの「協働」であると考えています。

去年は「まつぶし緑の丘公園」がオープンし、地域の団体やNPO法人が松伏町を盛り上げてくれました。子育て、教育や防犯などを地域ぐるみで支えたり、行政と連携しようという動きも多くなりました。ありがたいことです。

「協働」という文字には、「力」という字が4つも含まれています。それぞれの力が合わさり繋がっていくことで、いつの時代も前へ進んでいけるものだと思確信しています。



石島雄介選手（バレーボール）や石川遼選手（ゴルフ）などの松伏町の若者も、その活躍により、町へ夢と希望を運んでくれています。皆さまも、ぜひ、地域や職場でまちづくりに参加し、町へアイデアと活力を運んでください。

そして、今年が皆さまに多くの幸が運ばれ、充実した1年となりますことを心からお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。

松伏町長 会田 重雄